特許など知財活用を

ひろさき産学官連携フォーラム　鮫島氏が講演

特許取得など知財戦略の重要性を語った鮫島氏

ひろさき産学官連携フォーラム（櫛引利貞会長）は6日、基調講演会をアートホテル弘前シティで開き、小説「下町ロケット」に登場する弁護士のモデルとなった内田・鮫島法律事務所の鮫島正洋弁護士・弁理士が特許など知的財産を活用した中小企業の経営戦略をテーマに講演した。

鮫島氏は、ものづくり・技術系の中小企業が特定のニーズにターゲットを絞ったニッチ産業でトップを目指す上で「特許取得は必須」と強調。下町ロケットの例などを交えながら「知財が融資条件となる場合もある。先行投資になるかもしれないが、特許の取得を考えるべき」と述べた。

一方、特許の取り方が悪くて模倣を排除できない例も多いため「大企業であれば一つの発明で50件、100件の特許を出願するが、中小企業はせいぜい2件。一つ一つを徹底的にブラッシュアップしなければならない」と指摘した。

講演会に先立ち、定時総会が開かれ、2017年度事業計画案など4議案を承認した。

（齊藤雅也）

【平成29年7月7日(金)陸奥新報5面　掲載】

この画像（記事）は、陸奥新報社提供です。無断転載はできません